

【十月の言葉（令和元年）】

## 今を満足する人は 幸せである

先日、街角で、とある熱心な団体の信者さんが「あなたの幸せを祈らせてください」と近づいてきました。よっぽど私の顔が不幸に見えたのでしょうか。またその人は私の幸せがどういうものを具体的に知らないはずなのに、一体私の何を祈ろうとされたのでしょうか。

多くの人が幸せとはどういうものかが、はつきりと分らないまま、漠然と幸せを求めているようです。さらに言えば「幸せ者」に成りたがっているようです。つまり自分にとっての幸せを追求するよりも、人様から見て自分は幸せだと思われたい、そういうフシがあるようです。

思うに幸せとは、何かを漠然と追い求めることなく、現状の『ありがたさ』に気づいていくということではないでしょうか。健康な人は病気になってはじめて健康な日々のありがたさ・幸せに気づかされますが、健康な時に健康のありがたさは気づきにくいものです。

世の中にはいろんな人がいます。健康で豪邸に住みながらも何だかんだと自己中心的な不平不満を訴える人がいます。一方では病で床に伏しながらも日々感謝の念を表して眠りにつく人もいます。